

# もみ枯れ細菌病にご注意を！

今年の育苗期間の気温の傾向は、日中高温・夜間かなり低温と日気温較差が激しいです。夜間が冷え込み、霜が降りてくるような日の朝は急激に気温が上昇する可能性が高く、低温だからとハウスを閉め切るとムレ状態となり立枯病やもみ枯れ細菌病を誘発する恐れがあります。

特にもみ枯れ細菌病は、2葉目を越えたあたりから発生する為、「来週から田植えなのに…」となってしまうパターンが多く非常に怖い病気です。

もみ枯れ細菌病を防ぐためにはとにかく「**過保護にしすぎないこと**」・「**換気**」が重要です。田植えまで10日の頃の苗は、田んぼへ移る準備をさせるため夜間もハウスは開けっ放しにしましょう！

初期症状です。上位の葉が捲れてきます。穴のような状態になり始めたら要注意です。





もみ枯れ細菌病が進行すると一部分苗が凋落し始め、めくると苗の基部が赤く枯れ始めます。

怪しい苗を発見したらとにかくハウス内から隔離して下さい。



もみ枯れ細菌病に感染した苗です。特徴として葉身が簡単に抜け芯の部分が赤褐色に変色しているのが分かります。

同一ハウス内にあるだけで感染が誘発されますので見つけ次第箱ごと隔離して下さい。



進行が進むと左図のような状態になってしまいます。

すでに周辺の苗には感染していると考えた方がよいです。

少しでも異変を感じたら最寄りの営農センター専任指導員もしくは米穀課までお問い合わせをお願いします！